

# 大学改革実行プラン

## ～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～



平成24年 6月



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 大学改革実行プラン

## ～ 社会の変革のエンジンとなる大学づくり ～

### <目次>

#### 1. 概要

① 基本的考え方	P1～2
② 全体像	P3
③ 改革期間中の主な取組	P4

#### 2. 大学改革実行プラン主要事項説明資料

① 大学ビジョンの策定による戦略的な政策展開	P6
② 大学ビジョンの内容の構成イメージ	P7
③ 主体的に学び・考え・行動する力を鍛える大学教育の質的転換	P8
④ 大学入試の改革～学ぶ意欲と力を測る大学入試への転換～	P9
⑤ 産業構造の変化や新たな学修ニーズに対応した社会人の学び直しの推進	P10
⑥ グローバル化に対応した人材育成	P11
⑦ 大学COC (Center of Community)機能の強化について	P12
⑧ 大学の研究力強化の促進	P13
⑨ 国立大学改革【ロードマップ】	P14
⑩ 国立大学改革【多様な大学間連携(制度的イメージ)】	P15
⑪ 評価制度の抜本改革	P16
⑫ 大学情報の公表の徹底(大学ポートレート)	P17
⑬ 客観的評価指標の開発	P18～19
⑭ 質保証支援のための新たな行政法人の創設	P20
⑮ 国立大学における政策目的に基づいた基盤的経費の重点的配分の実現(イメージ図)	P21
⑯ 財政基盤の確立とメリハリある資金配分の実施【私学助成の改善・充実～私立大学の質の促進・向上を目指して～】	P22
⑰ 大学の質保証の徹底推進【私立大学の質保証の徹底推進と確立(教学・経営の両面から)】	P23

3. 大学改革実行プラン(詳細)	P24～30
------------------	--------

# 大学改革実行プラン

## ～ 社会の変革のエンジンとなる大学づくり ～

### ● 日本社会が直面する課題と大学

我が国は、急激な少子高齢化の進行、地域コミュニティの衰退、グローバル化によるボーダレス化、新興国の台頭による競争激化など社会の急激な変化や、東日本大震災といった国難に直面しており、今こそ、持続的に発展し活力ある社会を目指した変革を成し遂げなければならない。

大学及び大学を構成する関係者は、社会の変革を担う人材の育成、「知の拠点」として世界的な研究成果やイノベーションの創出など重大な責務を有しているとの認識の下に、国民や社会の期待に応える大学改革を主体的に実行することが求められている。

### ● 大学改革の方向性

社会との関わりの中で、新しい大学づくりに向けた改革を次の方向で迅速かつ強力に推進する。

- I. 激しく変化する社会における大学の機能の再構築
- II. 大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化

### ● 大学改革により期待される成果

大学改革の成果として、生涯学び続け主体的に考える力をもつ人材の育成、グローバルに活躍する人材の育成、我が国や地球規模の課題を解決する大学・研究拠点の形成、地域課題の解決の中核となる大学の形成など、**社会を変革するエンジンとしての大学の役割が国民に実感できることを目指して取り組む。**

# 大学改革実行プラン

## ～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～

### 我が国が目指すべき社会

- ・持続的に発展し、活力ある社会
- ・自立した個による多様性に富み、自然と共生する成熟社会
- ・高齢者・女性の参画が一層拡大した社会
- ・生涯学習の一層の拡大と人材の流動性が高まる社会

### 求められる人材像・目指すべき新しい大学像

- ・生涯学び続け、主体的に考え、行動できる人材
- ・グローバル社会で活躍する人材、イノベーションを創出する人材
- ・異なる言語、世代、立場を超えてコミュニケーションできる人材
  - ・学生がしっかり学び、自らの人生と社会の未来を主体的に切り拓く能力を培う大学
  - ・グローバル化の中で世界的な存在感を発揮する大学
  - ・世界的な研究成果やイノベーションを創出する大学
  - ・地域再生の核となる大学
  - ・生涯学習の拠点となる大学
  - ・社会の知的基盤としての役割を果たす大学

### 我が国が直面する課題、将来想定される状況

- ・急激な少子高齢化の進行、人口減少
- ・生産年齢人口減少、経済規模の縮小
- ・財政状況の悪化
- ・グローバル化によるボーダレス化
- ・新興国の台頭による国際競争の激化
- ・地球規模で解決を要する問題の増加
- ・地方の過疎化・都市の過密化の進行
- ・社会的・経済的格差の拡大の懸念
- ・産業構造、就業構造の変化
- ・地域におけるケアサービス(医療・介護・保育等)の拡大

## 大学改革の方向性

### 「大学ビジョン」の策定

#### I. 激しく変化する社会における大学の機能の再構築

- ① 大学教育の質的転換と大学入試改革
- ② グローバル化に対応した人材育成
- ③ 地域再生の核となる大学づくり(COC (Center of Community) 構想)
- ④ 研究力強化: 世界的な研究成果とイノベーションの創出

#### II. 大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化

- ⑤ 国立大学改革
- ⑥ 大学改革を促すシステム・基盤整備
- ⑦ 財政基盤の確立とメリハリある資金配分の実施
- ⑧ 大学の質保証の徹底推進

# 大学改革実行プラン 全体像

## 国としての大学政策の基本方針「大学ビジョン」の策定

### I. 激しく変化する社会における大学の機能の再構築

#### ① 大学教育の質的転換と大学入試改革

- ・ 主体的に学び・考え・行動する人材を育成する大学・大学院教育への転換(学修時間の飛躍的増加、学修環境整備等)
- ・ 高校教育の質保証とともに、意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価に基づく入試への転換の促進
- ・ 産業構造の変化や新たな学修ニーズに対応した社会人の学び直しの推進 等

#### ③ 地域再生の核となる大学づくり(COC (Center of Community)構想の推進)

- ・ 地域と大学の連携強化
- ・ 大学の生涯学習機能の強化
- ・ 地域の雇用創造・課題解決への貢献 等

#### ② グローバル化に対応した人材育成

- ・ 拠点大学の形成・学生の双方向交流の推進(日本人学生の海外留学の拡大、留学生の戦略的獲得)などによる、大学の国際化の飛躍的推進
- ・ 入試におけるTOEFL・TOEICの活用・促進、英語による授業の倍増
- ・ 産学協働によるグローバル人材・イノベーション人材の育成推進(「リーディング大学院」など大学院教育機能の抜本的強化)
- ・ 秋入学への対応等、教育システムのグローバル化 等

#### ④ 研究力強化:世界的な研究成果とイノベーションの創出

- ・ 大学の研究力強化促進のための支援の加速化
- ・ 研究拠点の形成・発展のための重点的支援
- ・ 大学の研究システム・環境改革の促進、産学官連携の推進、国際的な頭脳循環の推進 等

### II. 大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化

#### ⑤ 国立大学改革

- ・ 国立大学の個々のミッションの再定義と「国立大学改革プラン」の策定・実行
- ・ 学長のリーダーシップの確立、より効果的な評価
- ・ 多様な大学間連携の促進と、そのための制度的選択肢の整備
- ・ 大学の枠・学部の枠を越えた再編成等(機能別・地域別の大学群の形成等)等

#### ⑦ 財政基盤の確立とメリハリある資金配分の実施

- ・ 大学の積極的経営を促進・支援
- ・ 公財政支援の充実とメリハリある資源配分
- ・ 多元的な資金調達促進 等

#### ⑥ 大学改革を促すシステム・基盤整備

- ・ 大学情報の公表の徹底(大学ポートレート)、評価制度の抜本改革、客観的評価指標の開発
- ・ 質保証の支援のための新たな行政法人の創設 等

#### ⑧ 大学の質保証の徹底推進

- ・ 設置基準・設置認可審査・アフターケア・認証評価・学校教育法による是正措置を通じた大学の質保証のためのトータルシステムの確立
- ・ 経営上の課題を抱える学校法人について、詳細分析・実地調査・経営指導により、早期の経営判断を促進する仕組みの確立 等

# 大学改革実行プラン 改革期間中の主な取組

- H24及び第2期教育振興基本計画期間(H25～29)を大学改革実行期間と位置づけ
- 3つのフェーズで、スピード感と実行力を持って取り組む

## H24 改革始動期

～国民的議論・先行的着手、必要な制度・仕組みの検討～

- ・大学ビジョンの策定
- ・大学改革フォーラムの全国展開
- ・グローバル教育拠点の形成
- ・大学のガバナンス強化
- ・国立大学改革基本方針の提示

- ・国立大学のミッションの再定義や改革の方向性の明確化に着手  
特定分野で先行実施(教員養成、医学、工学)
- ・多様な大学間連携の制度的選択肢(一法人複数大学方式(アンブレラ方式)等、国立大学の評価・ガバナンス、財務上の規制緩和等)の検討に着手
- ・私立大学の教育活性化のためのメリハリある支援の強化
- ・早期の経営判断を促す私立大学への経営指導の強化

## H25・26 改革集中実行期

## H25・26 改革集中実行期

～改革実行のための制度・仕組みの整備、支援措置の実施～

- ・学生の「主体的な学び」の強化
- ・大学情報の公表の徹底(大学ポートレート)
- ・評価制度の抜本改革
- ・質保証の支援のための新たな行政法人の創設
- ・大学の研究力強化のための支援の加速化
- ・高校教育と大学教育を通じた学力保証
- ・国立大学改革プランの策定

- ・すべての国立大学学部のミッションを再定義、改革の工程を確定。ミッションに応じた重点支援を拡大し、機能強化を推進。大学の枠・学部の枠を越えた再編成等(機能別・地域別の大学群の形成等)
- ・私立大学の教育活性化の多様な展開
- ・「COC(Center of Community)構想」の具体化
- ・国公立大学の設置形態を越えた連携の本格的展開

## H27～29 改革検証・ 深化発展期

～取組の評価・検証、  
改革の深化発展～

## H27～29 改革検証・深化発展期

- ・大学改革の取組を評価・検証
- ・大学改革を深化発展

### 【改革の目指す主な具体的目標・成果の例】

【生涯学び続け、主体的に考える力を育成】

- ・主体的な学修ができる環境を整備し、学生の学修時間を欧米並の水準に

【グローバル社会で活躍する人材の育成】

- ・20代前半までに同世代の10%が、海外留学等を経験

【我が国や地球規模の課題を解決する大学・研究拠点の形成】

- ・世界で戦える「リサーチ・ユニバーシティ」を10年後に倍増

【地域の課題解決の中核となる大学の形成】

- ・全国の地域圏で、大学が地域再生の主要な役割を果たすセンターに



# 大学改革実行プラン主要事項説明資料

①	大学ビジョンの策定による戦略的な政策展開	P6
②	大学ビジョンの内容の構成イメージ	P7
③	主体的に学び・考え・行動する力を鍛える大学教育の質的転換	P8
④	大学入試の改革～学ぶ意欲と力を測る大学入試への転換～	P9
⑤	産業構造の変化や新たな学修ニーズに対応した社会人の学び直しの推進	P10
⑥	グローバル化に対応した人材育成	P11
⑦	大学COC(Center of Community)機能の強化について	P12
⑧	大学の研究力強化の促進	P13
⑨	国立大学改革【ロードマップ】	P14
⑩	国立大学改革【多様な大学間連携(制度的イメージ)】	P15
⑪	評価制度の抜本改革	P16
⑫	大学情報の公表の徹底(大学ポートレート)	P17
⑬	客観的評価指標の開発	P18～19
⑭	質保証支援のための新たな行政法人の創設	P20
⑮	国立大学における政策目的に基づいた基盤的経費の重点的配分の実現(イメージ図)	P21
⑯	財政基盤の確立とメリハリある資金配分の実施【私学助成の改善・充実～私立大学の質の促進・向上を目指して～】	P22
⑰	大学の質保証の徹底推進【私立大学の質保証の徹底推進と確立(教学・経営の両面から)】	P23

## 大学ビジョンの策定

### ◇ 国としての大学政策の基本方針

#### 【主な項目等】

- 20～30年後を展望した日本の将来像、求められる人材像、社会的課題に対応した教育・研究の国家戦略
- 産業構造の変化等に対応した高等教育、大学教育に対する進学需要
- 大学の果たすべき役割・機能と課題（人材育成、イノベーション創出、地域貢献等）
- 大学政策の方向性

### 大学政策の戦略的展開

### 教育振興基本計画

- 大学関係予算の戦略的配分
  - ・大学ビジョンに基づく配分方針の策定
  - ・既存の施策事業の検証・見直し 等

- 制度等の見直し・整備
  - ・評価制度の改革、大学ガバナンス強化
  - ・多様な大学間連携の促進のための制度整備 等

- 国立大学改革の推進
  - ・ミッションの再定義
  - ・国立大学改革プランの策定・実行 等

- 政策課題への計画的取組
  - ・地域再生の核となる大学づくり(COC構想)の整備
  - ・「主体的な学び」のための学修環境の整備 等



## 1. 20～30年後の日本の将来像、求められる人材像

### ○ 20～30年後の日本と世界の展望を踏まえた、日本が直面する課題

少子高齢化、産業構造・就業構造の変化、高付加価値を有するイノベーションの創出、高い専門的・汎用的能力を有する人材の量的確保 等

### ○ この課題解決のために、求められる能力

様々な分野での卓越した能力、異文化・異言語の相手との協働、世代・立場を越えたコミュニケーション能力 等

### ○ 求められる人材像・大学教育に対する進学需要

・新たな価値を創造する人材、優れた価値をグローバルに展開する人材、地域を支える人材  
・新たな雇用が見込まれる成長分野(医療・介護等)で必要とされる高等教育修了者 等

## 2. 大学の果たすべき役割・機能と課題

### ○ 大学が果たすべき役割・機能

①生涯学び続け、主体的に考える力を持った人材育成  
②社会・経済の発展を牽引する人材育成  
③世界的な研究成果とイノベーションの創出  
④地域再生・地域課題解決における中核としての成果の発揮 等

### ○ 現在の大学の課題

①大学教育が、社会経済の求める人材ニーズに対応していない  
②社会人学生・留学生の割合が低く、人材の流動性を促す仕組みとして不十分  
③経営上・教学上課題のある大学の存在  
④研究で世界と戦える大学数が少なくその地位が低下している  
⑤大学の持つシーズ・リソースが社会で十分生かされていない 等

## 3. 大学政策の方向性

### ○ 大学教育の質的転換 ～ 他の高等教育機関との役割分担と連携の下、学士課程、修士課程、専門職学位課程、博士課程を通じて実施 ～

・高校教育改革、入試、大学教育改革の一体実施  
・学修時間の増加、教員の組織的教育、学修環境の整備等  
・学修成果の把握(アセスメントテスト等)  
・社会人学生・留学生の受入れ拡大  
・高等教育における実践的キャリア教育・職業教育の充実 等

### ○ 戦略的な機能強化

・層の厚い「リサーチ・ユニバーシティ」・研究拠点の形成  
・グローバルに活躍する人材育成、国際化の拠点大学の形成  
・地域再生の核となる大学・大学群\*(COC「Center of Community」)の形成  
・多様で質の高い中間層の形成(社会人の学び直しも含む) 等

※大学、短大、専門学校 等

### ○ システム・基盤整備

・大学ビジョン等に基づく、メリハリある戦略的資源配分  
・大学群の形成に向けた大学連携の推進(国際展開のための大学間連携、連携のための多様な制度的枠組みの整備)  
・世界標準の質保証の仕組みの整備(大学ポートレート、評価制度改革、客観的指標整備等)  
・大学の質保証の徹底推進(質確保のためのトータルシステムの確立、きめ細かい経営指導や支援、教学上問題のある大学への厳格な対応)  
・質的転換のための公財政投資の充実、大学のガバナンス強化 等

# 主体的に学び・考え・行動する力を鍛える大学教育の質的転換

## 社会が求める人材像

主体的に学び考え、どんな状況にも対応できる多様な人材

## 大学教育に求められること ～学生の主体的な学びの確立～

学修時間の実質的な増加・確保により、

- ① 「答えのない問題」を発見、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を鍛えること
- ② 実習や体験活動などの教育によって知的な基礎に裏付けられた技術や技能を身に付けること

## 大学教育の質的転換のための取組

- ・ 教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生が相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修を中心とした教育へと転換することが必要
- ・ その際、以下の諸方策と連なってなされることが必要

### ○ 教育課程の体系化

教育課程全体として、育成する能力、知識技術、技能と個々の授業科目の関連性を明示

### ○ 組織的な教育の実施

教員全体の主体的な参画により、教員間の連携と協力により教育を実施

### ○ 授業計画(シラバス)の充実

事前の準備や事後の展開などの指針、他の授業科目との関連性等、授業の工程表として機能するよう作成

### ○ 教員の教育力向上、学生の学修環境の整備などを進めるための全学的な教学マネジメントの改善

#### 平成24年度から直ちに実施

- ・ 文部科学省による、教育方法、学修環境等を把握するため“緊急調査”を実施
- ・ 大学教育改革に関する“フォーラム(対話集会)”を全国各地で実施
- ・ 私立大学教育研究活性化のための環境支援
- ・ 基盤的経費の機動的配分によるガバナンス強化・教育改革加速 等

#### 平成25年度から逐次実施

- ・ 学生の主体的学びを拡大する教育方法の革新
- ・ 教員の教育力向上への支援
- ・ 国際的に信頼感の高い教育システムの整備 等

# 大学入試の改革

## ～学ぶ意欲と力を測る大学入試への転換～

### 1. 高校教育から一貫した質保証へ ～点からプロセスによる質保証へ～

※本年夏を目途に中央教育審議会等で検討開始

#### 【現状】

入試に様々な機能が求められ過ぎている

大学教育

入試

高校教育

- ・各大学の教育水準や学生の質の評価指標
- ・大学進学希望者の能力・適性の判定
- ・高校における学力の状況の把握
- ・高校における幅広い学習の確保
- ・高校生の学習意欲の喚起

機能分散

#### 【転換後】

それぞれの段階で、必要とされる能力や学習成果を確認し、次の学びへつなげていく仕組みへの移行

大学教育

入試

高校教育

### 2. 教科の知識偏重の入試から「意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価」へ ～各大学が丁寧に選抜する入試へ転換～

※考えられる取組み例

※可能な取組から逐次着手

#### 【現状】

教科の知識を中心としたペーパーテスト偏重による一発試験的入試

#### 【転換後】

志願者の意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価に基づく入試へ

1点刻みではないレベル型の成績提供方式の導入によるセンター試験の資格試験的活用の促進

思考力・判断力・知識の活用力等(クリティカルシンキング等)を問う新たな共通テストの開発

大学グループ別の入学者共同選抜の導入の促進

志願者と大学が相互理解を深めるための、時間をかけた創意工夫ある入試の促進

# 産業構造の変化や新たな学修ニーズに対応した社会人の学び直しの推進

社会人の学  
び直しに共  
通する課題

▼多忙な社会人に対する教育アクセスの確保

▼教育資源の偏在への対応

▼プログラムの認知度・通用性の確保

▼プログラムの専門性・充実度のバラツキ解消

## 大学の取組

◇ICT・通信教育の活用

◇履修証明制度の活用

を着実に進めるとともに

産業界と大学が協働してプラットフォームを構築し、

対話の深化・好事例の共有・情報発信を図る

ことが必要

→例えば、以下のような連携のあり方が考えられる

○企業人材(研究者・技術者・経営管理人材等)の  
高度化(学位取得支援など)が必要

◇博士人材には、高度な専門性、幅広い知識や課題発見力を期待できるが、企業はその活用に消極的で、十分な活躍の場がない

◇大学は、産業界が求める能力を備えた人材の育成ができていない

◇産学協働によるイノベーション人材  
育成のための取組

▼社内研究者の学位取得支援を拡大

▼産学共同研究等に従事しながら学位を取得できるプログラムを開発し、学び直しや社員教育にも活用

○特定分野のブラッシュアップ・再雇用支援が必要  
(医療、保育、観光など)

◇少子高齢化に伴う労働力人口の減少、将来の中間層となる若年者の非正規雇用層の増大や雇用のミスマッチなどが発生している

◇成長分野において、付加価値をつけた雇用の創出が求められている

◇特定ニーズに対応した短期プログラム開発

▼雇用創出が期待される成長分野で産学官コンソーシアムを構築し、新たな学修システムの基盤を整備

○地域の人材ニーズ(国際対応能力・地域活性化など)に  
対応した教育体制の構築が必要

◇地域課題が多様化・複雑化する中、大学がその解決に取り組むため、学内外の様々な資源を有機的に結合することが求められている

◇地元自治体と連携した取組の支援

▼地元自治体・NPOと連携して地域の課題解決や「新しい公共」の創出・発展に取り組む大学を支援

# グローバル化に対応した人材育成

## 拠点大学の形成などによる、大学の国際化の飛躍的推進

### 【目標】

- ・入試・授業を通じた語学力向上の取組
- ・海外留学・交流の拡大
- ・教員のグローバル教育力の強化
- ・入学・卒業時期の弾力化
- ・外国人教員の採用拡大等

### 【施策①】

#### 国際化の拠点大学の形成（H24年度より取組を強化）

- 各大学が、
- ・卒業時の外国語力スタンダード（例：TOEFL iBT80点）の設定とこれを満たす学生数、卒業時における単位取得を伴う海外留学経験者数など、達成目標を設定
  - ・目標達成に向けて、日本人学生の海外留学者数・比率、外国人留学生数・比率、外国語による授業の実施率などの具体的目標や、日本人学生の留学促進のための環境整備、英語による授業のみで単位取得ができるコースの導入等の具体的構想を設定し、事業を実施

### 【施策②】

#### 学生の双方向交流の推進

- ・海外の大学に長期留学する学生や、大学間交流協定等に基づき海外の大学に短期留学する学生に奨学金を給付
- ・国費外国人留学生への奨学金、私費外国人留学生への学習奨励費給付等

## 入試におけるTOEFL・TOEICの活用・促進、英語による授業の倍増

## 産学協働によるグローバル人材・イノベーション人材の育成推進

#### リーディング大学院の構築【博士課程教育リーディングプログラム】

研究者養成の性格が強かったこれまでの博士課程教育を改革し、俯瞰力・独創力を備え、産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成する「リーディング大学院」の構築を支援。

#### 円卓会議において、「アクションプラン」を策定

- ・世界を舞台に活躍できるグローバル人材育成のための教育の充実・強化
- ・社会に新たな価値や成長モデルを創造するイノベーション人材の育成・活用の充実・強化  
→企業の協力を得て大学教育の改善を推進

#### 産業界と大学、政府が協力してプラットフォーム構築に取り組むことを、社会運動として継続的に推進

- ・円卓会議の提言の普及（シンポジウムの開催、取組状況の発信）
- ・各地域、各業界において産学連携の場の形成を推進
- ・産学協働のアクション（採用慣行の改善（留学経験積極評価、通年採用））
- ・企業人材の活用による教育システムの構築

## 秋入学への対応など、教育システムのグローバル化

※ 平成25年度より逐次実施

- ・グローバルに活躍する者に求められる幅広い教養教育（関係する知識を全体的に把握・俯瞰し理解する能力の育成）
- ・学修時間の飛躍的増加と、それを支える学習環境の整備（教員サポート体制、図書館機能の強化等）
- ・学生の主体的学びを拡大する教育方法の革新、教員の教育力向上（参加型授業、フィールドワーク、教員の教育評価等）
- ・国際的に信頼感の高い教育システムの整備（科目ナンバリング、準備学修を求めるシラバス等）



## 背景

### 【これまでの大学に対する批判】

- 大学の教育研究が、社会の課題解決に十分応えていない。
- 学生が大学で学んだことが、社会に出てから役立っていない。
- 地域と教員個々人のつながりはあっても、大学が組織として地域との連携に臨んでいない。

学生が主体的に学び、次代を生き抜く力を育むことを前提に

### 【大学が地域の課題解決に取り組む意義・効果】

- 大学の教育研究がより現実的な課題を直視したものになる。また、地域社会の大学に対する理解が進む。
- フィールドワーク等を通じて、学生が社会の現実の課題解決に参加することで実践力を育成。学修する意欲も刺激。
- 大学が組織として地域と連携することで、大学の様々な資源が有機的に結合。課題解決に向けた教育研究活動も活性化。

## 目標

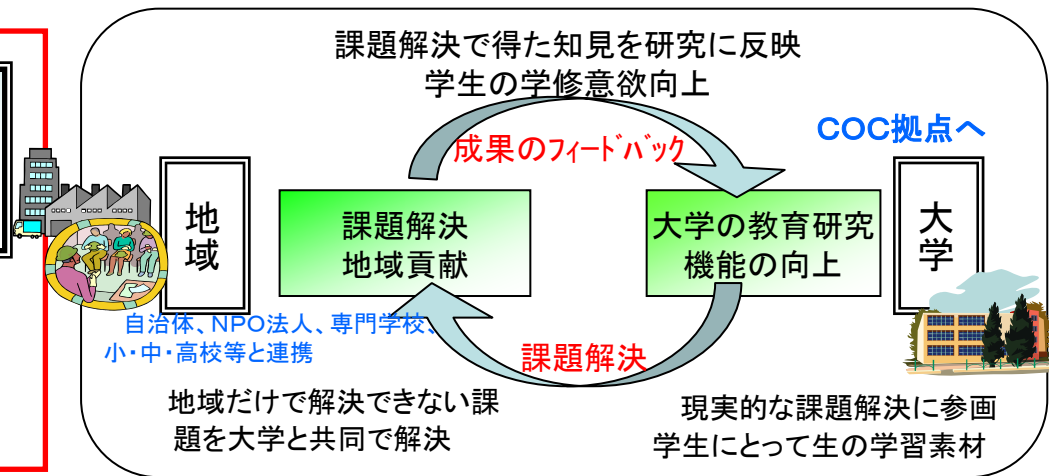
大学等(短大・高専を含む)が、地域の課題を直視して解決にあたる取組を支援し、大学の地域貢献に対する意識を高め、その教育研究機能の強化を図る。

### 【支援対象】

地域の課題解決につながる、特に優れた教育研究活動。

### 【支援方法】

プログラム策定経費、システム整備費、人件費(TA・RA経費)等



## 地域人材の育成・雇用機会の創出

- 社会人のニーズに対応したキャリア・アップ、就業等学びの場の提供による社会人学生の受け入れなど、社会人に対する学び直しの場を提供。  
例)結婚を機に退職した教員や看護師が、大学の講座を受講して再び職場に復帰。
- 超高齢化社会に対応した学びや交流の場を提供。
- 地域の産業界と連携した研修等を提供。

## 地域活性化・地域支援の取組み

- 学生による地域の子ども達への支援や、商店街活性化などの活動。  
例)地域づくり考房「ゆめ」による外国籍児童との交流活動(松本大学)
- 震災や原発事故などの災害による影響や改善策についての調査研究。  
例)避難所や仮設住宅で暮らす子ども達の学習・遊び支援(福島大学)

## 産学連携・地場産業の振興

- 地元企業が直面している技術開発上の課題に対する助言、地域の特産である農産物の栽培方法や品種改良など、地域に対する研究成果の還元。
- 研究成果の社会実装に向けた産学連携拠点の構築と産学連携機能の高度化・ネットワーク化。
- 受諾研究や共同研究など、地域の企業等の個別ニーズに対応した研究開発。



## 課題・背景

### 被引用度の高い論文数シェア

1998年－2000年(平均)			
Top10%補正論文数(整数カウント)			
国名	論文数	シェア	世界ランク
米国	33512	49.5	1
英国	7864	11.6	2
ドイツ	6667	9.9	3
日本	5099	7.5	4位
フランス	4787	7.1	5
カナダ	3751	5.5	6
イタリア	2926	4.3	7
オランダ	2472	3.7	8
オーストラリア	2108	3.1	9
中国	1417	2.1	13

2008年－2010年(平均)			
Top10%補正論文数(整数カウント)			
国名	論文数	シェア	世界ランク
米国	45355	42.3	1
英国	12818	12.0	2
ドイツ	11818	11.0	3
中国	9813	9.2	4
フランス	7892	7.4	5
カナダ	6622	6.2	6
日本	6375	5.9	7位
イタリア	5950	5.6	8
スペイン	4784	4.5	9
オランダ	4715	4.4	10

出典：文部科学省科学技術政策研究所「科学研究のベンチマーキング2011」

○国際的に見ると、全体としてわが国の研究力は相対的に低下傾向

○世界で戦える「リサーチ・ユニバーシティ」の層が薄い

○大学の研究体制・環境の全学的・継続的な改善に課題

- ・研究者一人あたりの研究支援者数は低下。諸外国に比べ低水準。
- ・教員配置の固定化やポストク等の任期付雇用の増加により、新陳代謝に課題。
- ・海外派遣研究者数の伸びは横ばい。長期派遣はピーク時の半分以下。
- ・国際共著論文の割合が低い。
- ・民間からの研究資金等が近年減少
- ・更新時期を迎えている研究設備の整備・更新が困難。

○学長が全学的に課題解決を図るための権限と資源が不足

## 課題解決の方向性

○学長のリーダーシップ発揮による全学的な研究力強化策を推進

・研究力の進展が期待できる大学に対し、エビデンス※に基づき、「リサーチ・ユニバーシティ」としての研究力を強化する取組を支援

※指標例：科研費の獲得状況、高被引用度論文のシェア、民間企業との共同研究実績等

○課題別の取組により改革実践を蓄積

- ・研究システム・環境改革の促進  
(テニュアトラック、リサーチアドミニストレーターの普及・定着等)
- ・産学官連携の推進(産学連携拠点の構築と機能の高度化・ネットワーク化等)
- ・国際的な頭脳循環の推進

○力のある研究拠点への集中投資と多様な研究の支援

- ・研究拠点の形成・発展のための重点的支援
- ・科研費の充実

効果

大学間の持続的な競争環境の醸成

研究力と意欲を有する大学の持続的な成長

国際的な競争力を有する研究拠点の形成・持続的発展

世界で戦える「リサーチ・ユニバーシティ」群の増強

大学の研究力の向上により、イノベーションの加速、社会・経済の発展に寄与